第１章　美馬市及びモデル地区の現状

第１章　美馬市及びモデル地区の現状

１　位置・地勢

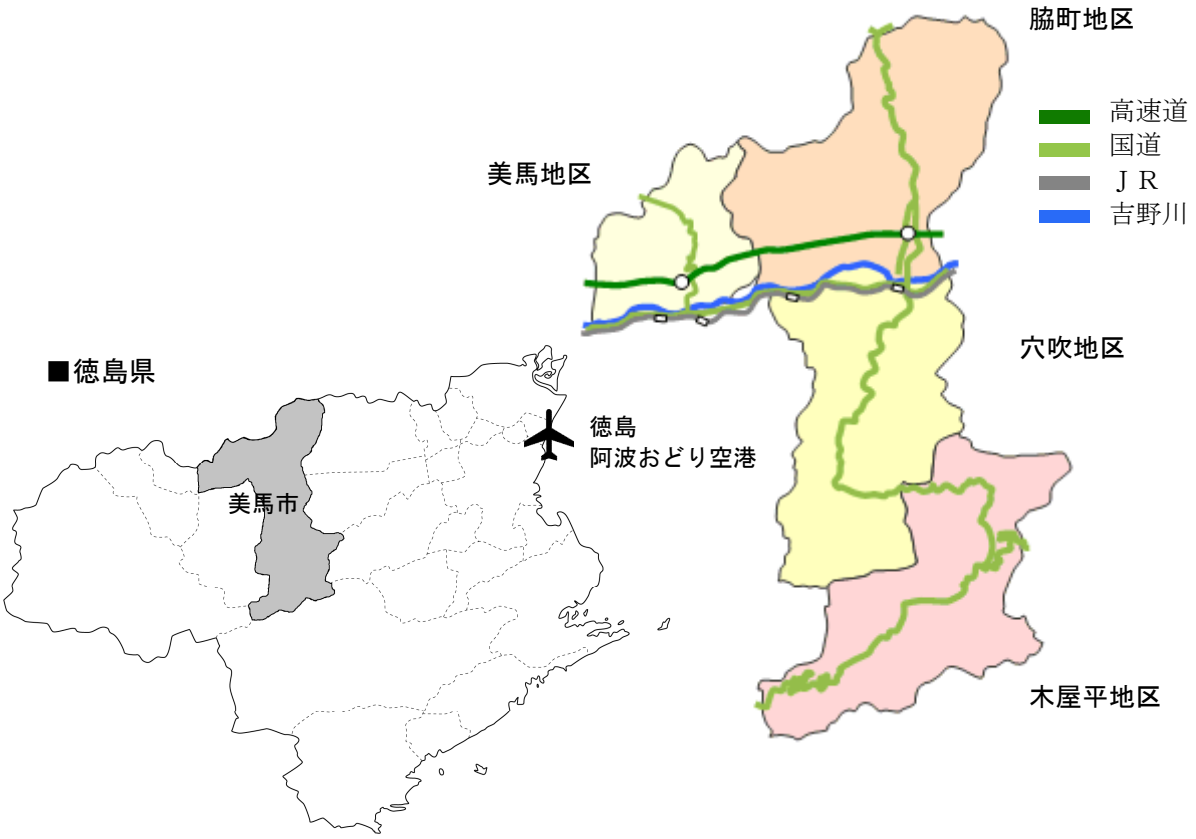
本市は県都徳島市から西へ 40 キロの位置にあり、西側が三好市三野町・美馬郡つるぎ町と、北側が讃岐山脈の山頂で香川県と、東側が阿波市・吉野川市・神山町と、南側が那賀郡那賀町と隣接している。

市のほぼ中央を東西に吉野川が、南北等は穴吹川等の吉野川水系の河川が流れ、その沿岸の平野部が主な可住地となっている。北側の讃岐山系、南側の剣山山系をはじめ、総面積の約 8 割が森林で、清らかな水と豊かな緑に囲まれた地域を形成している。

本市を通じる主要な道路交通は、徳島自動車道（市域内に２インターチェンジが設置）、国道 192 号、193 号、438 号及び 492 号、主要地方道美馬・塩江線、県道鳴門池田線があり、主要交通機関はＪＲ徳島線と路線バスが運行されている。市内の２つのインターチェンジは高速バスが発着しており、また、県都徳島市にある徳島空港まで徳島自動車道で約１時間、香川県高松空港も 50 分の至近距離にあるなど、全国の主要都市との交通利便性に恵まれている。

本市の総面積は 367.38k ㎡で、これは徳島県全体（4,145.69k ㎡）の約 8.9%にあたる。このうち可住地が 76.22k ㎡で、総面積の約 20.7%を占めている。モデル地区（美馬地区）は、合併前の旧美馬町の区域で、面積は 46.44 ㎡、市北西部に位置し、東側を市内の脇町地区と接している。

図表１－１　美馬市の位置



２　歴史・沿革

本市は、平成 17 年３月１日に旧美馬郡内の脇町、美馬町、穴吹町、木屋平村が合併して市制を施行し、新市として８年が経過している。旧町村時代からの歴史・文化・町並みを継承しており、なかでも「うだつの町並み」は、江戸から明治にかけて藍で栄えた往時を偲ばせる文化的価値の高い町並み景観として全国的に知名度が高い。

モデル地区である美馬地区は、昭和 32 年（いわゆる昭和の大合併期）に郡里町と重清村の合併により誕生した旧美馬町のエリアが継承され、美馬町時代から数えると 60 年近くのまちづくりの歴史を有している。讃岐山脈を背に南側が開けた地域となっており、良好な日照条件等から肥沃な土壌が形成されている。このため古くから農業が盛んで、現在ではエンドウ、トマト、インゲンなどの野菜生産のほか、養鶏等が盛んになっている。

地区内は大きく、郡里地区、重清地区の２つの地区で構成されている。郡里地区は吉野川左岸讃岐山脈を背に東に野村谷川、西に鍋倉谷川に挟まれた扇状地、山地と段丘と沖積平野からなっている。重清地区は郡里地区の西部に位置し、農業従事者が多く、過去には藍作を盛んに行った時期もみられた。

地区内には、「段の塚穴」（国指定史跡）と呼ばれる６～７世紀の古墳、郡里廃寺跡（国指定史跡）と呼ばれる白鳳期に建立された四国最古の寺院があり、豊かな歴史・文化の足跡を残している。

図表１－２　美馬市の歴史を物語る史跡

（左上）玄室（棺をおさめる部屋）が珍しいドーム状の太鼓塚古墳。
（右）　全国で28番目の重要伝統的建造物群保存地区として指定された脇町南町の「うだつの町並み」。
（左下）屋根は本瓦ぶき、２階の窓は防火に重点をおいた「虫籠窓」。２階の屋根の両端に漆喰塗りの「うだつ」がある。

３　人口・世帯

(1) 人口・世帯の推移

平成 25 年 10 月１日現在の人口は、3 万 1,864 人（住民基本台帳人口）で、合併時の平成 17 年３月１日時点の 3 万 5,295 人から 9.7%の減少となっており、合併後も人口の減少が続いている。一方、世帯数は核家族化等を背景に増加を続けており、平成 25 年現在、1 万 2,984 世帯で、合併時点の 1 万 2,555 世帯から 3.4%の増加となっている。

図表１－３　人口・世帯数

区分	平成 17 年 3 月 1 日	平成 25 年 10 月 1 日	増減	増減率
人口	35,295 人	31,864 人	-3,431 人	-9.7%
世帯	12,555 世帯	12,984 世帯	429 世帯	3.4%

資料：住民基本台帳

(2) 人口構造

本市の人口構造をみると、年少人口（14 歳未満）は 3,376 人（10.6%）、生産年齢人口（14～64 歳）1 万 8,296（57.4%）、老年人口（65 歳以上）は 1 万 192 人（32.0%）となっている。本市では、平成 20 年から 25 年までの 5 年間で、年少人口が 9.7%、生産年齢人口が 7.7%、老年人口が 0.4%それぞれ減少している。老年人口と比較して、年少人口、生産年齢人口の減少率が高いため、少子高齢化の進行が早く、老年人口の割合は過去 5 年間で 1.7 ポイントの増加となっている。

図表１－４　美馬市の人口推移

区 分	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	増減(率)
総人口	33,793	33,390	32,922	32,416	32,390	31,864	-1,929
年 少 人 口	3,739 (11.1%)	3,680 (11.0%)	3,610 (11.0%)	3,503 (10.8%)	3,445 (10.6%)	3,376 (10.6%)	-363 (-9.7%)
生産年齢人口	19,820 (58.7%)	19,499 (58.4%)	19,207 (58.3%)	18,965 (58.5%)	18,893 (58.3%)	18,296 (57.4%)	-1,524 (-7.7%)
老 年 人 口	10,234 (30.3%)	10,211 (30.6%)	10,105 (30.7%)	9,948 (30.7%)	10,052 (31.0%)	10,192 (32.0%)	-42 (-0.4%)

（注）増減率は平成 20 年から 25 年までで５年間の率
資料：住民基本台帳（各年 10 月）

(3) 地区別人口

地区別人口は脇町地区が最も多く 1 万 6,533 人で、総人口に占める割合は 51.9%にのぼる。今回調査のモデル地区である美馬地区は脇町に次いで人口が多く 8,146 人、総人口に占める割合は 25.6%となっている。

図表１－５　地区別人口と世帯

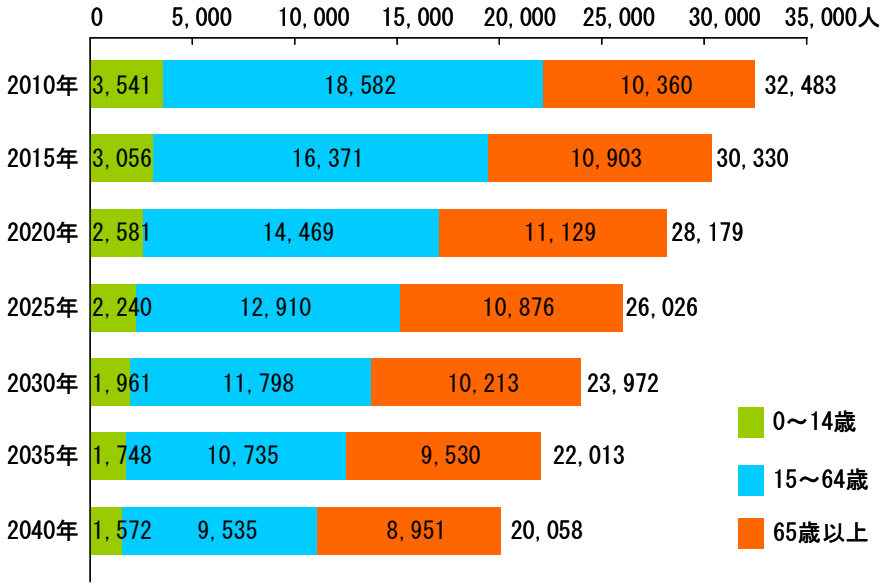
区分	地区別人口	構成比
美馬地区	8,146	25.6%
脇町地区	16,533	51.9%
穴吹地区	6,416	20.1%
木屋平地区	769	2.4%
合計	31,864	100.0%

資料：住民基本台帳（10 月 1 日現在）

(4) 将来人口

平成 22 年国勢調査結果を基にした将来人口予測では、平成 32 年（2020 年）までに総人口は 3 万人を割り込み、平成 52 年（2040 年）にはおよそ 2 万人まで減少することが予測されている。このうち０歳から 14 歳までの若年層は 3,541 人から 1,572 人と半数以下まで減少することが予測されている。

図表１－６　美馬市の人口の推移



資料：国勢調査（各年 10 月）

(5) 児童数の推移

平成 24 年現在の市内の児童数は 1,506 人で、地区別では、美馬地区は 384 人、脇町地区 839 人、穴吹地区 264 人、木屋平地区 19 人となっている。

市の推計では、平成 29 年までの５年間で、市全体では約２割の児童数が減少することが見込まれている。また、市内４地区のすべてで児童数は減少し、特に木屋平地区では３割以上の減少が予想されている。

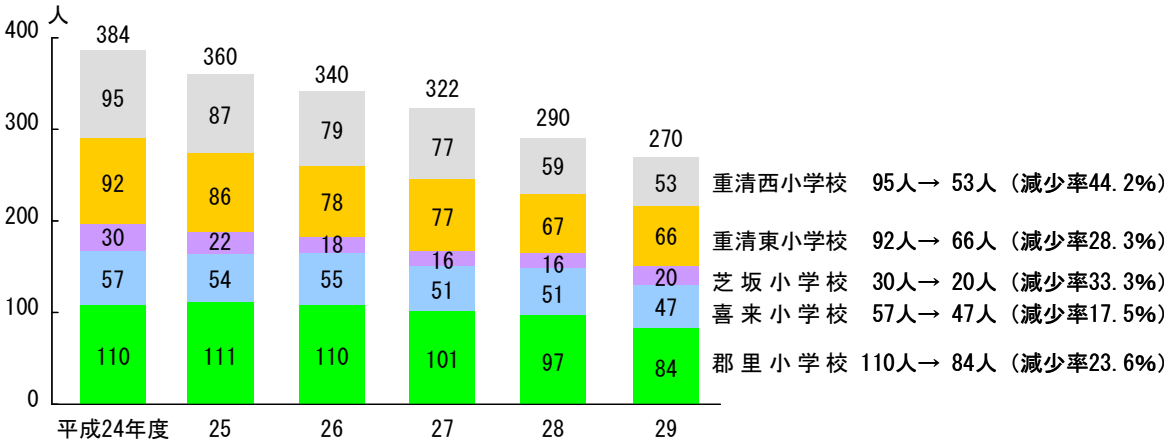
モデル地区の美馬地区では、平成 24 年度の 384 人から平成 29 年度には 270 人（減少率 29.7%）になると予測されている。

図表１－７　小学校児童数の現状と今後の予測

区 分	美馬地区	脇町地区	穴吹地区	木屋平地区	市全体
平成 24 年度	384 人	839 人	264 人	19 人	1,506 人
平成 29 年度	270 人	706 人	228 人	13 人	1,217 人
減少率	29.7%	15.9%	13.6%	31.6%	19.2%

資料：美馬地区学校再編計画（平成 25 年３月）

図表１－８　小学校別児童数予測



資料：美馬地区学校再編計画（平成 25 年３月）

図表１－９　平成 29 年度学年別児童数の予測

区分	１年生	２年生	３年生	４年生	５年生	６年生	合計
児童数	52 人	33 人	43 人	45 人	51 人	46 人	270 人

資料：美馬地区学校再編計画（平成 25 年３月）

４　産業

(1) 商業

卸売・小売業の事業所数は、平成 24 年調査で 405 事業所、従業者数は 2,229 人となっている。平成 21 年と比べると 75 事業所の減少、従業者数 241 人の減少となっており、増減率はそれぞれ－15.6%、－9.8%となっている。

図表１－１０　商業事業所、従業者及び販売額の推移

区分	平成 21 年	平成 24 年	増減	増減率
事業所数（店）	480	405	−75	−15.6%
従業者数（人）	2,470	2,229	−241	−9.8%

資料：平成 21 年経済センサス基礎調査、平成 24 年経済センサス活動調査

(2) 工業

工業の状況は、平成 24 年の調査で、事業所数が 50、従業員数は 1,479 人、製造業出荷額は 3,890 千万円となっている。平成 20 年と比較すると事業所数では 15.3%の減少、従業員数は 0.2%の減少となっているが、製造業出荷額については 8.9%の増加となっている。なお、主な業種構成は、木材・家具、食料・飲料等、土石製品、衣料・繊維製品等である。

図表１－１１　工業事業所、従業者及び販売額の推移

区分	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	増減	増減率
事業所数（事業所）	59	58	57	49	50	−9	−15.3%
従業員数（人）	1,482	1,446	1,426	1,345	1,479	−3	−0.2%
製造品出荷額（千万円）	3,571	3,670	3,817	4,077	3,890	319	8.9%

資料：工業センサス

(3) 農業

平成 22 年農林業センサスによる農家総数は 3,083 戸で、経営耕地面積は、1,021ha（うち田 644ha、畑 277ha、樹園地 100ha）である。平成 2 年と比較すると、農業経営体数は 12.0%の減少、また耕地面積は 26.8%の減少となっている。

図表１－１２　農家数、経営体数及び経営耕地面積

区分	平成 2 年	平成 12 年	平成 22 年	増減	増減率
農家数（戸）	4,404	3,610	3,083	−527	−12.0%
農業経営体数（戸）	−	2,093	1,398	−695	−
経営耕地面積（ha）	2,190	1,607	1,021	−586	−26.8%

資料：1990 年、2000 年世界農林業センサス、2010 年農林業センサス

(4) 林業

平成 22 年農林業センサスによる本市の森林面積は 29,207ha で、市全体の約８割を占めている。

林家数は、1,534 戸で、平成 12 年と比較すると、11.1%減少、また保有山林面積は 9.2%減少している。

図表１－１３　林野面積、林家数及び保有山林面積

区分	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	増減	増減率
林野面積（ha）	29,116	29,104	29,207	91	0.3%
林家数（戸）	1,726	1,575	1,534	-192	-11.1%
保有山林面積（ha）	8,836	8,068	8,024	-812	-9.2%

資料：1990 年、2000 年世界農林業センサス、2005 年、2010 年農林業センサス

５　地域資源

(1) 歴史資源

市内には段の塚穴、郡里廃寺跡の２つの国指定重要文化財がある。段の塚穴は、1400 年前（古墳時代後期）に築造された２基の古墳で、横穴式石室がこの地方独特の構造（段の塚穴型石室）をしていることが大きな特徴となっている。約 1300 年前（白鳳時代）に建立されたとされる郡里廃寺跡は、県内最古期の寺院跡とされ、これまでの発掘調査によって、塔（一辺約 12m）、金堂（南北約 12m、東西約 16m）と塀によって区画された寺域（南北約 120m、東西約 100m）が明らかとなり、これによって法起寺式の伽藍配置であることが判明している。

市内の歴史資源が最も集積する脇町地区は、蜂須賀家政が 1585 年阿波に入国したとき、筆頭家老の稲田植元が脇城を治めて以来、城下町として繁栄した。阿波藩が奨励した藍づくりは、江戸時代から明治にかけての阿波の代表的な産業として広がり、交通の要衝として吉野川の水運に恵まれた脇町は藍の集散地として栄え、藍商・呉服商の商人が繁栄を極めた。こうした繁栄の象徴として、「うだつ」と呼ばれる二階の壁面の袖壁が商家に建造され、脇町商家の富や成功の証の象徴とされた。「うだつ」の町並みに立ち並んだ建造物は、国選定重要伝統建造物群保存地区として昭和 63 年に指定され、全国的に高い知名度を誇っている。

木屋平地区の三木家住宅は、穴吹川上流の丘陵頂部近くに建てられた民家で、寄棟造茅葺きで前後面に鉄板葺きの小さな庇が付いている。建物の特徴等から江戸時代初期の建築と推定され、民家としては徳島県内最古の建造物で、国指定重要文化財に指定されている。

図表１－１４　主な文化財

① 国指定重要文化財

種別	名称	員数	所在地	指定年月日
史　　跡	段の塚穴	2 基	美馬町	昭和 17 年 10 月 14 日
彫　　刻	木造毘沙門天立像	1 躯	脇　町	昭和 25 年 8 月 29 日
建　造　物	三木家住宅	1 棟	木屋平	昭和 51 年 2 月 3 日
史　　跡	郡里廃寺跡	1 件	美馬町	昭和 51 年 3 月 22 日
建　造　物	旧長岡家住宅	1 棟	脇　町	昭和 51 年 5 月 20 日

② 国選定重要伝統建造物群保存地区

種　　別	名称	員数	所在地	指定年月日
伝統的建造物群	脇町南町伝統的建造物群保存地区	88 棟　他	脇　町	昭和 63 年 12 月 16 日

(2) 自然・プレイスポット

四国一の清流穴吹川と四国一の大河吉野川では、キャンプやカヌー、鮎釣りを、また讃岐の山々を背に空を舞うパラグライダーや、剣山山系での登山・グラススキーなど、アウトドアを楽しむことができる。

地域の特産品であるブルーベリーをはじめ、りんご園・栗園など観光農園も多く、豊かな自然を堪能できる。

(3) 特産品

本市を代表する農産物は、柚やぶどう、八朔などがある。なかでも柚は柚味噌など加工品にも用いられ人気がある。和傘や阿波うちわは、匠の技として伝統が継承されている。なかでも和傘は往時には 200 軒余りの和傘店が軒を競った。

このほか、日本一の生産量を誇るのが、洋ランの一種、シンビジウムである。市内にはシンビジウムの育成と種苗生産で全国 80%のシェアを有する企業があり、世界中で愛されるシンビジウムは本市生まれの品種が最も多い。